

展示報告

「結婚 出産 お葬式～道具がかたる人生儀礼のころ～」

丸谷 仁美*

はじめに

平成19年4月28日から7月16日までの約3ヶ月間、民俗部門では、人生儀礼に関する展示を行った。

ここでは展示までの経過と展示概要について報告する。

1 展示までの経過

人生儀礼の展示を行う計画については、2～3年ほど前から出ていたが、展示期間等、具体的に変わったのは平成17年の冬頃であった。

平成17年度

まず、文献や報告書などから事例を集めると同時に、数家族の女性たちに世代によって、人生儀礼にどのような変化があったかを中心に聞き取りを行った。結婚式は農閑期に行われることが多いことや、県北の地域では冬期に亡くなった場合、先に遺骨にして春に改めて葬儀を行ったという話などを聞き、秋田の風土と人生儀礼との関わりなども展示に反映していきたいと考えた。

平成18年度

展示期間は、当初平成19年度の冬を予定していたが、他の企画展とのからみから、春に繰り上げて展示されることになった。

平成18年度は具体的な展示資料を選定する作業を中心に行ったが、資料を確定していく段階で、人生儀礼の中でも、結婚、出産、葬儀を中心に構成を考えた。

展示資料はほとんどが秋田県で収集されたものを用いたが、産婆が使用した「コナサセ道具」は岩手県浄法寺歴史民俗資料館から、結婚、子育て、葬儀の3つに関わる資料として「ムカサリ絵馬」を山形県立博物館より借用することにした。

平成18年12月頃までには展示資料も確定し、レイアウトもほぼ出来たが、翌年の1月頃、2つの問題が館内から出され、展示作業を一時中断せざるを得なくなった。問題の概要と館内で話しあった結果は以下のとおりである。

①展示タイトルについて

タイトルがなかなか確定できず、「人の一生」「人生儀礼」のどちらかを考えていたが、担当者は「人生儀礼」でいく方向で進めていた。しかし、館内から「人生儀礼」という言葉は一般的でないという意見が出、タイトルを再考することになった。その結果、人生儀礼という言葉はサブタイトルに入れることになり、メインタイトルは展示の内容が分かりやすく伝わるようにということで「結婚 出産 お葬式」に確定した。

②葬送儀礼の展示について

葬儀を展示することについて、来館者から不快感をもたれるのではないかという意見が館内から出、展示構成全体をもう一度考えることになった。

まず、葬儀の展示を行うことについて、人生儀礼の中でも死に関する儀礼について考えてもらいたいこと、秋田県では骨葬が行われることによって、独自の葬具が生まれたこと、また他館でも葬儀に関する展示は行われていることなどの話をし、一応葬儀の展示を行うことのできた。

ただし、展示の仕方については以下のような意見が出された。

- a. 座棺輿、寝棺輿、骨ダミ（火葬骨を墓地へ運ぶための輿）の3つをオープンで展示する予定であったが、来館者が不快感をしめすのではないかとこのことで、すべて壁面ケース内におさめることになった。その結果、展示のレイアウトを若干変更し、寝棺輿は展示しないこととした。

* 秋田県立博物館

b. 展示が葬儀で終わると、展示全体の印象が暗くなってしまふことが考えられるので、葬儀の後に「先祖になる」というコーナーを加えることになった。年忌供養や彼岸、盆行事を写真パネルで紹介し、人は亡くなっても時間がたつと、家の繁栄や五穀豊穡をもたらしてくれる先祖になるという概念を説明した。

また、葬儀のコーナーは照明を若干明るくするなど、展示手法についても案が出された。

上記のような意見をもとに、展示構成を再考し、その後、具体的な展示準備にかかった。

2 展示概要

人生儀礼の変遷を知ってもらうために、展示では統計資料を用いて、結婚、出産、死をとりまく環境の変化を説明した。また、資料点数が257点と多く、パネルやラベルでの説明が多いと煩雑になってしまうため、パネルはコーナー冒頭のみにとどめ、解説資料を展示室に置いた。

①結婚

冒頭で、秋田県内の婚姻数や、1960年と2004年の婚姻月についての統計データを置き、皇族などの結婚が報じられると婚姻数が増えること、2004年では婚姻月に目立った特徴はないが、1960年では農閑期に婚姻数が増えていることなどを示した。

展示室に入ってすぐ、仙北市角館町の家で明治時代から伝えられている婚礼道具一式を展示した。はじめに豪華な婚礼道具を見もらうことで、結婚式の華やかな雰囲気を体感して欲しいというのが目的である。そして次の区画からは昭和20年から30年頃の秋田で使われた婚礼道具や結婚式の写真パネルなどを展示した。身分や時代によって結婚式で使われる衣装や道具が異なることを知らせたかったが、資料が多く、整理しきれない部分もあったため、その意図があまり明確には伝わらないところもあった。

展示物としては、花嫁衣装やかんざしなど人目にひくものの他、嫁入り下駄をいくつか展示した。そして嫁入り下駄に冬用のものが多いのは冒頭の統計資料で示したように、農閑期に結婚式を行う

ことが多かったからなどをギャラリートークの際に補足説明した。

また、由利本荘市本荘地区で祝いごとの際に室内に掛けられた内のれんなども展示することが出来たが、結婚式で使われる展示資料が少なく、煩雑になってしまったことや、最後にウェディングドレスを展示したが、現在の結婚事情について触れるところが少なかったことが反省点ではあった。

②出産

出産のコーナーでは、展示の内容を、出産と、子育てとに分けた。はじめに安産祈願に関する秋田県内の行事やまじないなどを写真パネルで紹介した後、安産祈願の神社として全国的に有名な唐松信仰をとりあげた。唐松講の道具や講員名簿などから、唐松講が秋田県だけでなく、全国的に普及していることが講員名簿からはうかがえた。その他の県内に伝わる安産祈願に関するお札など、安産信仰に関する資料もあわせて展示をした。その後は実際に産婆が使っていた道具や産床、産前産後に使用する薬などもあわせて置き、解説資料で座産と寝産によるお産の違い、産婦人科の誕生などの補足説明を行った。

次のコーナーでは出産後、子育てのための道具を中心に展示をした。コーナーを、母親と一緒に育つ時期と、母親の手を離れて一人遊びができる時期とに分け、それぞれの時期の着るものやおもちゃ、乳母車などの道具を置いた。

中でも、魔よけのまじないに用いられた背守りのついた着物や背守りの見本帳を借用することができたので、さまざまなバリエーションを見もらうことができた。

展示室の中では背守りの着物を置いた横に、乳幼児の死亡率の統計データを置いた。戦前までは県内での死亡者数の約5割が、1歳未満の子どもであることがデータから分かり、それだけ子どもを育てることが難しかったことの説明資料とした。それに続き、子どもの供養として、山形県のムカサリ絵馬を壁面に展示した。そのほか、県内ではどのような子どもの供養が行われているかを写真パネルで紹介した。

③お葬式

他の2つの儀礼と異なり、葬儀は宗教的な側面をはずすことができない。宗派によっても葬儀の仕方は異なるが、今回は秋田県内に多い、曹洞宗を中心とした葬儀ということで、展示を行った。

出産の最後のコーナーで、子どもの死亡率が高かったことを述べたが、以前は天寿をまっとうすることも難しく、立派に成人し、一人前になることはめでたいことだと考えられていた。そこで、葬具を展示する前に年祝いの例など、県内の事例を中心に紹介した。また、昭和40年頃から全国的に、苦しまずに死にたいというポックリ信仰、コロリ地蔵なるものが流行し、県内にもコロリ地蔵と呼ばれるものが散見されるので、写真パネルで紹介した。

葬儀に関する資料は、さきほども挙げた座棺輿や骨ダミ、明治時代に作られた葬式用祭壇、送籍帳などである。

なお、館内から、葬式のコーナーでは直接死に直結する道具ばかりでなく、死後の世界を象徴する道具なども展示してはどうかとの意見が出たので、閻魔奪衣婆、十王像などを葬儀のコーナーの冒頭に展示した。今回は菅江真澄が描いた十王像なども借用することができたことはひとつの成果であったと思う。

葬具は土葬の時代に使用されていたものと、現在の葬祭業者が使用する葬具の両方とを展示し、土葬から火葬への変化や、葬儀を行う場所の変化などを統計資料で紹介した。また、秋田県の葬儀の特徴ともいえる、アトミラズの習俗や骨葬については解説資料で補足説明をした。

展示室の最後に、館内でも懸案事項であった「死後の世界」のコーナーを設け、秋田市内で正月十六日に行われている札打ち行事や横手市の彼岸まいり、にかほ市象潟の盆小屋行事などを写真パネルで紹介した。なお、彼岸の時に用いられる百万遍の数珠や彼岸花などを展示した。

付帯事業

会期中、以下の付帯事業を行った。

講演会

演題「人生儀礼の民俗学」

講師 秋田大学准教授 島村 恭則氏

島村氏より、人生儀礼についての概要や、研究史、現在の儀礼について分かりやすく講演をいただいた。

ギャラリートーク

当館職員が、毎週土曜日に1時間程度のギャラリートークを行った。

なお、うち一回は斎藤壽胤氏に、秋田での人生儀礼を中心にギャラリートークをしていただいた。

展示反省会から

展示終了後、館職員ならびに当館ボランティアや友の会による展示のアンケートをもとに、反省会を行った。

アンケートは展示全体、解説系、資料や展示手法、広報手段などの項目ごとに1～4点までの点数をつけていくという方式と、展示について自由に記述する方式である。

点数については、館外の評価が館内よりも高かったが、「見応えのある展示であったかどうか」の問いに対しては、館外の評価が館内より下回ったことが反省会で指摘され、万人に楽しんでもらう展示とは何か意見として出された。

自由記述では、解説シートが多く、内容が分かりやすかったという意見が複数見られた。身近なテーマで幅広い年代の人が興味を持ったという意見がある一方、タイトルだけを聞き、「自分には関係ない」という反応をする人もいたなど、人生儀礼そのもののテーマについても考えさせられた。

なお、展示の前に館内で懸念されていた葬式の展示に関する反応だが、アンケートからは特に来館者から苦情などのようなものは受けず、むしろ死に関する問題を興味深くとらえてもらえたようであった。ただし、葬式のコーナーの展示手法をもう少し工夫した方がよいという意見は複数出された。

また、今回は展示室の割合に対して展示資料が多く、資料を消化しきれいていないのではないかという意見も複数あった。展示室で再度レイアウトを組みなおすことも何度かあったので、今後は展

示手法などについてもよく考える必要があるように思った。

まとめ

展示を行う前からさまざまな問題のあった企画展ではあったが、多くの人の意見を聞くことができ、また話し合った結果を展示に反映させること

ができたことはよかったと思う。また、展示を行ったことによって、秋田県の人生儀礼の特徴を見いだせたこと、会期中、展示を見にきて下さった方々から、さまざまな情報や新たな資料をいただく機会になった。

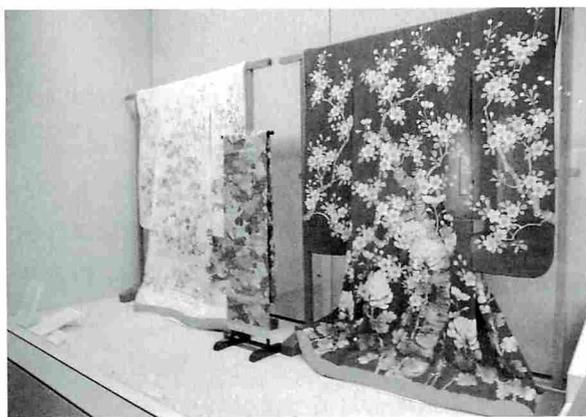
展示については十分でない部分もあったが、今後は報告書などまとめていきたいと思う。

主な展示資料

名 称	所贈者名	名 称	所贈者名
結 婚		掛け着物	大仙市南外民俗資料交流館
明治～昭和初期の婚礼道具一式	個人蔵	掛け紋付き	館蔵
おはぐろ箱	館蔵	一つ身、三つ身、四つ身	館蔵
裁縫箱・裁縫型紙	秋乃宮博物館	エヅメ	館蔵
家事教科書	秋乃宮博物館	ゆりかご	秋乃宮博物館
油単（長持の覆い）と長持	館蔵	おもちゃ・すごろく類	秋乃宮博物館
婚礼衣装	館蔵	哺乳瓶	秋乃宮博物館
かんざし、櫛、こうがい	館蔵	子育て関連商品看板・ポスター	秋乃宮博物館
つのかくし	館蔵	粉ミルク缶	秋乃宮博物館
婚礼用かつら	館蔵	歩行器	秋乃宮博物館
嫁入下駄	館蔵	七五三用着物	個人蔵
祝い半纏	大仙市南外民俗資料交流館	ホデキ棒	館蔵
祝いゲラ	館蔵	迷子札	秋乃宮博物館
内のれん	個人蔵	背守りのついた着物	美郷町学友館
島台	秋乃宮博物館	背守り見本帳	個人蔵
ウェディングドレス	館蔵	米びつ（ヨノケ）	大仙市南外民俗資料交流館
タキシード	館蔵	鳩杖	館蔵
白無垢	美郷町学友館	葬 儀	
出 産		送籍届	秋乃宮博物館
初嫁棒	館蔵	十王像・閻魔・奪江婆	東泉寺、龍像院
二十三夜講道具一式	大仙市南外民俗資料交流館	ソズケのばあさんの着物	東泉寺
子育て祈願絵馬	妙晴寺	香典帳	館蔵
唐松講道具一式	唐松神社	葬式用祭壇	館蔵
安産関連薬広告	唐松神社	タツガシラ	海蔵寺
産前産後の薬	秋乃宮博物館	ドウモツ	個人蔵
腹帯	秋乃宮博物館	マブリ	個人蔵
コナサセ道具一式	二戸市立浄法寺歴史民俗資料館	座棺興	館蔵
助産道具一式	館蔵	骨ダミ	北秋田市七日市 本郷自治会
産床	館蔵	現在の葬具一式	JA葬祭レゼール
胞衣壺	館蔵	浄土和讃本	館蔵
へその緒	個人蔵	百万遍の数珠	龍像院
子育て・年祝い		彼岸花	館蔵
出生届	秋乃宮博物館		
母子手帳	秋乃宮博物館		
天神人形・ひな人形	館蔵		



仙北市個人宅に伝わる婚礼道具



結婚・婚礼用打掛（大正時代頃）



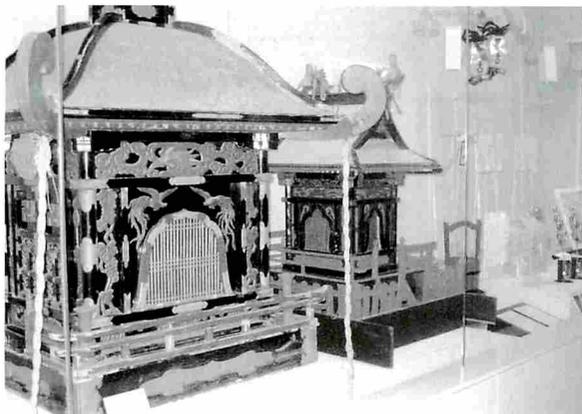
かんざし、つのかくしなど



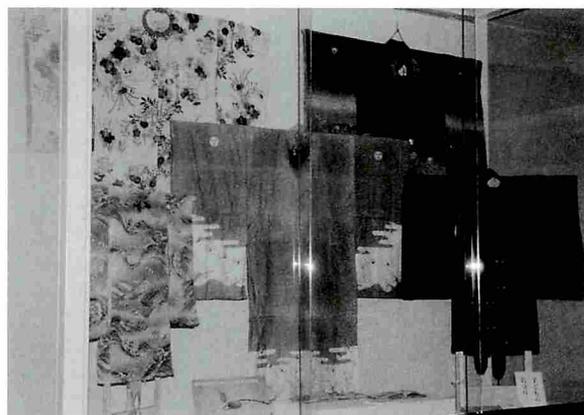
出産：唐松神社絵馬



子どもの着物、おもちゃ類



座棺輿、骨ダミ



背守りのついた着物



お葬式：葬式用祭壇など